

破壊の伝統 人間文明の本質を問う

J・A・リヴィングストン(著)、日高敏隆・羽田節子(訳)——講談社学術文庫一九九二年

「この本がどのくらい『エコライフ』というテーマと直結しているかを考えると、私には少々自信がない。が、『エコライフ』を支える精神を形作る上で、大いに役立つ書であることは確かだと思ふ。」

私は、もう幾度となくこの本を読み、その都度、著者(J・A・リヴィングストン)の生命に対する思いの深さに心打たれた。と同時に、ここまで地球上の他の生命を脅かしてきた人類という存在に、救いようのないやるせなさを感ずるのである。

『破壊の伝統』という題名は、訳者の手になるものだが、全体の論旨を的確に表している。原題は『One cosmic instant Man's Fleeting Supremacy』。訳者の表現を借りれば、宇宙の一瞬間 人間の束の間の優越である。

全ての人類による自然破壊は、人間の自然克服の過程で生じ、さらなる大量生産、大量流通、大量廃棄への過程で加速度的に進んできた。それも、束の間「の出来事なのだ。」

そもそも、一握りの土くれさえも創造し得ない人間のちっぽけな英知では、自然を克服することなど、本当の意味ではできない。息・食とも自然の恩恵あつて我々は生きながらえているのである。「自然と人間」、こう考える対立の構図そのものに人間の驕りがある。人間は自然と向き合つて存在することなどできない。自然に包まれ、自然に抱かれて、ようやく暮らしているのだ。それに気付いてかアメリカではダムを壊し始め、欧州では川を再び以前のように蛇行させる工事が進んでいる。

我々の全ての生産は、実は、破壊」と表裏をなすことを、この本は教えてくれる。その破壊が、ついには人間自体をも破壊させる。しかし、その時が来ても、地球と地球上の他のいくつかが、沢山の生命は存在し続けるだろう。「エコライフ」とは、人間のこの地球上での位置を確認し、我々の行為が結果として、我々自身に害とならしてしまわぬよう、英知を働かせるための貴重な「メンテナンス」なのである。



推薦者
山本コウタロー
(やまもとこうたろー)

白鷗大学経営学部教授、フォーキンシガー。一九四八年東京生まれ。一橋大学社会学部卒業。『走れコウタロー』や『呷めくり』などのレコード曲を持ち、また地球環境問題をライフワークとする。『健康の基本は食にあり』をエッセイに、四年より玄米自然食を実践。八八年より自ら耕すことにも挑戦。『自然農法』による野菜・穀物作りを西伊豆でスタート。主な著作は、『ほくのエコロジーライフ』(労働旬報社)、『耕せコウタロー』(家の光協会)など。

from editor's room

CEL編集部が推薦する参考図書

- 『1億人の環境家計簿 - リサイクル時代の生活革命』山田國廣 藤原書店(1996年)
- 『ゴミを出さない暮らしのコツ - キラクで身近なエコロジー入門』赤星たみこ 大和書房(1998年)
- 『図解(得)エコロジーライフ実践マニュアル - 家庭でできる簡単エコライフ術からリサイクル商品、アウトドア・ガイドまで』松本剛 同文書院(1998年)
- 『台所が結ぶ生命の循環 - 生ごみ堆肥化をはじめよう』吉野馨子他 筑波書房(1999年)
- 『子どもとはじめるエコライフ』熊澤幸子 フレーベル館(1999年)
- 『エコロジカルライフのすすめ - 地球温暖化を防ぐ』世田正光 文芸社(2000年)
- 『だれでもできる地球を守る3R大作戦 - むだを減らしてスッキリ・エコライフ』山本耕平 合同出版(2001年)
- 『21世紀の情報とライフスタイル - 環境ファシズムを超えて』杉原利治 論創社(2001年)
- 『だれでもできる環境家計簿 - これで、あなたも“環境名人”』本間都 藤原書店(2001年)

- 『歴史が教えるエコライフ』1-3 谷口研語編 省エネルギーセンター(2001年)
- 『健康とエコライフ』七尾純 大日本図書(2002年)
- 『やってみようエコチェック - 環境をよくする25のヒント』高月紘 講談社(2002年)
- 『エコライフ人宣言 - エコロジカルな家事のすすめ』土井明弘 一橋出版(2002年)
- 『田舎暮らしの論理』歌野敬 葦書房(2002年)
- 『2100年未来の街への旅 - 自然循環型社会とは何か?』サステナブル・デザイン研究会 学習研究所(2002年)
- 『環境を守るほど経済は発展する - ゴミを出さずにサービスを売る経済学』倉阪秀史 朝日新聞社(2002年)
- 『エコライフを実践する』杉山久仁子編著 丸善(2003年)
- 『持続可能な消費と生活者』小澤久仁子 放送大学教育振興会(2003年)
- 『いちばん大事なこと』養老孟司 集英社(2003年)
- 『エコライフ - ドイツと日本どう違う?』高松平蔵、高松アンドレア 化学同人(2003年)
- 『まんがで学ぶエコロジー - 本当に「地球にやさしい社会」をつくるために』鈴木靖文他 昭和堂(2004年)